

平成20年11月4日

学校だより

～ 塩っ子の夢と希望を育むために ～

No.7

高松市立新塩屋町小学校

TEL 851-2011

FAX 851-2059

e-mail e-sinsio@edu-tens.net

夢をもち、その夢に向けて

校長 池田 保

先日、松島小学校で研究授業があり、授業の前に、松島公園から新設統合校「高松第一学園」の建設の様子を見ました。校舎の屋根の部分が見られ、来年4月の中学校の統合に向け、工事が順調に進んでいると思われました。

ところで、高松第一学園の小中一貫教育の基本方針において、小中一貫教育のめざす姿として、「義務教育9年間の連続性、継続・発展性に留意した学校運営により、……子どもたちの確かな学力と豊かな人間性、健やかな体をはぐくむ。そして、一人一人の創造性を伸ばすことで、自分の夢を描き、夢に向かってたくましく挑戦する意欲をもった人づくりをめざす。」と示されています。9年間の長いスパンの中でというものの、塩っ子の一人一人がどんな夢を描き、その実現に向けた教育課程をいかに組んでいくかは、私たちの大きな課題だといえますが、そのヒントを城内中学校での学習発表会で得ることができました。

子どもたちが描く将来の夢と将来つきたい職業とは、イコールではないと考えます。しかし、発表の中で、中学2年生の子どもたちが高松みらい科の学習（3日間の職場体験学習）を通して、～の仕事につきたいという意見が、学習前と比べて2倍に増えていました。そして、今回の体験学習から、仕事への努力と誇り・相手を想う心といったことを学んでいました。きっと、この職場体験学習により、具体的な仕事へのイメージが大きく膨らんだのではないかと思います。そう考えると、小学校の高松みらい科や生活科のあり方について、中学校への接続という視点で、実践を通して検証していく必要があると思います。また、2年生の発表の最後に、「仕事は人に夢を与えてくれる」、「夢をもち、その夢に向かって努力をしよう」という言葉が心に残りました。

仕事を単なる仕事ととらえず、仕事を通して自分自身を高め、そんな自分が好きになること・自分と人や社会との関係を考えながら、新たな目標に向かっていくことなどといったことが、夢をもち、夢に向かう姿の一面と考えることができます。

<子どもたちの学習の一場面から>

【5年生 高松みらい科の学習】



香川県立ミュージアムの特別展「備讃における工芸のあゆみ」に伴って、5年生が讃岐漆芸の体験学習（蒔髷 きんま技法による作品づくり）を行いました。自分だけのオリジナルの作品ができたという喜びとともに、讃岐の伝統工芸を引き継いできた人々の思いにふれることができたのではないかと思います。この後、「のり染め」の調べや体験を通して、これら伝統工芸にかかわる人々の生き方にふれ、自分の将来について考えていく学習予定となっています。



【6年生 高松みらい科の学習】

6年生は、運動会前から3回の城東保育園との交流を行っています。保育士さんから幼い子どもたちと接していくうえでの心構えを聞いたり、園の清掃を子どもたちと一緒に行っています。今後は、手作りおもちゃやゲームを考え、子どもたちとの活動を楽しむ中で、職業への意識を高め、将来の生き方について考えていきます。



【香川発 超小型人工衛星STARS打ち上げ】



県の理科支援員等配置事業を活用し、香川大学工学部 能見公博准教授に来ていただき、香川大学工学部で開発した人工衛星の紹介や打ち上げ等の宇宙技術について、お話をさせていただきました。「宇宙のことを学びたい」という当初の思いから、同じ学問を進めるのなら人工衛星を造ろうと考え、ものづくりの過程で新しい発見と挑戦が続いているという内容でした。お話の後、子どもたちからは、活発な質問がたくさん出されました。